



トップ直撃インタビュー

永谷園

成田健一 社長

4月1日付で就任した永谷園の成田健一代表取締役社長。ウイズコロナ時代への対応や原材料価格等の高騰など課題が山積する中、これまで営業一筋のスペシャリストが陣頭指揮を執り、さらなる成長に挑む。成田新社長に抱負や今後の事業方針などについて聞いた。

(聞き手 高野内俊)

――社長就任の抱負を

入社以来、営業一筋でやってきたが、色々勉強して、少しでも会社に貢献できるように取り組んでいきたい。

『売上を伸ばす』『経費を抑える』、簡単に言えば、この2つができるかどうかだと思っている。毎年の事業計画を達成することが大きな役割ではあるが、まずは目の前の課題を1つ1つ着実にクリアしていきたい。

『安心安全かつ高品質でおいしい商品をお客様に提供し続けること』がホールディングスを含めた大きな方針で、『味ひとすじ』の理念をおぶれることなくやっていくことが最も大事だ。

――新社長のカラーをどう出していくか
私は長い

ブランドを底上げし若年層を取り込む

間、野球をやっているが、会社も野球も一人ではできないので、チームこそが重要。『創る』『作る』『売る』を全体最適で考え、強いチームを作っていきたい。

会社の中には優秀な社員がいる一方、成長が遅い社員もいる。そういった社員を切り捨てていくと、最終的には人がいなくなってしまう。

――前期の振り返りと足元の状況について
コロナの流行以降は、商品供給が滞ったり、特売機会が減少するなど、消費者にご迷惑をお掛けしたが、

最も大事なものはやはりブランドだと考えている。ブランドとは、信頼感や好感度、期待感を消費者に提供することがベースとなるもので、当社も一定程度支

ないかと考えている。その一方で、人口減少と高齢化はずっと続いていくので、シニア層に対してのアプローチも等しく重要だ。コロナ禍が長引き、内食機会は引き続き高い水準なので、特に惣菜類は伸びすチャンスがある。野菜と合わせて食べる『麻婆春雨』の新たな使い方や昨年発売したレンジ対応商品による時短調理などを継続提案していく。

――今後強化する商品分野は
『お茶づけ海苔』は看板

どこに行ってもそのようなお話があり、期待の高さを感じている。その一方で、若い消費者がお米を炊く機会が少ないという課題もある。当社商品は米飯に関わるものばかりなので、米飯の消費喚起に貢献することが大事な役割だと認識しており、積極的に展開していきたい。

.....

(成田健一(なりた・けんいち)) 1983年4月永谷園(現永谷園ホールディングス)入社。2006年3月営業本部札幌営業所長、08年4月営業本部統括部首都圏量販営業所長、10年3月営業本部広域流通副部長、11年10月営業本部統括部広島支店長、15年9月永谷園(現永谷園ホールディングス)退職、15年10月永谷園転籍・営業本部統括部広島支店長、18年3月営業本部統括部名古屋支店長、19年2月取締役営業本部長、19年3月取締役営業本部長兼営業企画部長、20年4月取締役営業本部長を経て現職。神奈川県出身、61歳。

まうのではないか。出来ない社員は落第ということではなく、皆を引き上げていく努力をしていきたい。また、その責任があると思っ

特に営業パーソンには『トライをしない』と訴えたい。これまでの国内マーケットには『こうすればできる』という履歴があったと思うが、この先は誰も経験したことがない環境となり、その中で何をしていくかが問われる。先例に倣うのではなく、主体的

菓ごもりの特需とその反動減を経て、以前の状況に戻りつつある。

その一方、原材料価格等が高騰しており、6月1日に一部商品の価格改定を実施するが、現在はその準備を進めているところ。まずはお客様にしっかりとご理解いただくことが、事業計画達成の起点になると考えている。

営業本部長時代に、新商品はむやみに数を出すのではなく、3年をかけてしっかり定着させる方針に変更

持されていると思うが、諸先輩方が築き上げたブランドを、どのようにより大きくしていくかが課題だ。

どの食品メーカーも同じような側面があると思うが、会社の歴史と共にユーザーが高齢にシフトしているため、いかに若い世代を取り込んでいけるかがポイントになる。お子様に向けた『めざまし茶づけ』もその一環で、子どものうちに『お茶づけ海苔』を食べてもらえれば、その先も末永く愛していただけるのでは

商品で今年発売70周年になるが、喫食頻度・回数はまだ伸ばせると考えている。

『めざまし茶づけ』で若年層への認知は進んでいると思うが、さらに掘り下げて売上拡大を目指したい。

即席みそ汁は売上に占めるウエイトが高いが、競合環境が激しい。何とか価格競争から脱却して、価値ある商品を適正な価格でお届けできるようにしたい。

――小麦粉価格の値上げで、消費者の米飯回帰が進むのではと言われている